

ラグビーフットボールのルール改正に伴う選手の意識

Athletes' attitudes on rule changes in rugby football

1K09B217-0 吉井耕平

指導教員 主査：リー・トンプソン先生 副査：島田陽一先生

【序論】

ラグビー校からルールが初めて作られてから長い歴史の中で幾多の変遷を経て大きく変容している。2012 度からも新ルールが追加される。国内では 8 月からトップリーグ開幕戦で実施され、1 年間の試験的適用を経て、来シーズンから正式採用される見通しと発表された。ルールの改正によって選手は果たしてラグビーを楽しめているか。ルール改正が何度も行われていることで選手にはどのような影響が起こっているか？近年、商業化したスポーツになったことによるルール改正で選手は、ラグビーに不満や嫌悪感が持っていないだろうか？ラグビーのルール改正によって起こる人々の意識に焦点をあて研究を行なった。これを研究背景として述べている。第二節の研究目的は早稲田大学ラグビー蹴球部の選手にルール改正について意識調査を行う。そしてその結果からどのように今後のラグビールールを改正していくかを提言することを本論文の目的とした。第三節ではルールの変遷について論じたものである。慣習をルールとしたラグビーが組織化され、近年では幅広い人々にラグビーを楽しんでもらうため商業化している。

【先行研究】

先行研究では 2008 年のルール改正で、あらゆる体型や体格の人のためのラグビーという ELVs の目的を汲んでいないということが判明した。またラグビーの醍醐味であるトライとコンタクトプレーが減り、ELVs の趣旨である観客やプレーヤーにとっての楽しみが少なくなったと考えられるという論文が挙げられている。また 2008 年、2012 年のルール改正内容をまとめ、仮説を立てた。

【仮説】

ルールが改正されることに不満やためらいといった批判的な意見が増えると考えられる。2008 年の試験的実施ルール ELV は FW と BK とともに大幅なルール改正が行われ、選手の新ルールに対する戸惑いや不安が多くあったと考えられる。2012 年から実施されるルールでは主に 3 つの改正点に注目した。コンバージョンキック、ラックの終了、スクラムコールで特に選手の批判的な意識が考えられると仮説を立てた。

【研究方法】

アンケート調査を行い、早稲田大学ラグビー蹴球部の 99 名に意識調査を行なった。SPSS とエクセルから評価の平均値を出した。

【結果と考察】

選手全体の評価にはあまり差は見られなかった。ポジションごとに分けた結果からみるとルール改正に影響する選手には評価の差が見られた。とくに 2012 年では仮説で上げたルール改正 3 点に関係するポジションに差がみられ、不満やためらいが見られた。

【まとめ】

選手はルール改正されることに伴う意識は、ほとんどの選手が批判的ではなく、差がみられなかった。不満を持つ選手もなかにはいることがわかったが選手全員ではなく、ルール改正によってプレーの変化が起こるポジションで不満やためらいを持つことがわかった。また最近のラグビーでは FW のポジションに関係したルール改正がされている。そのポジションでは不満を持つこと、ためらいを抱くことがわかった。選手はルール改正によってラグビーの楽しさやラグビーの好きさが変化することはなかった。ルールは変化するが選手はルール改正に対応ができています。それはルールにあった新しい戦術を考え、そしてルールをより解釈することによってルールの盲点をつくプレーが生み出されているのだろう。ルール変化されることもラグビーの醍醐味として選手は捉えているのかもしれない。

今回の研究では、ラグビー憲章に則ったルール改正を行なっていく、従来の方法で問題ないということが提言とし本論文は完成した。

本研究の課題は 2012 年以降のデータを収集することでよりルール改正による選手の意識がわかるため、データを新たに収集するべきである。またラグビーに関わる、幅広い人々を対象に調査を行うことが今後のラグビー発展に必要である。